

～ケンタ呼びかけの若手グループ～

世襲問題で論争起こす

「国会議員の親族は、せめて別の選挙区で立候補を」

「大正からずっと私の一族で議席をいただいていた」。右の読売新聞にあるように、民主主義を勘違いしたベテラン議員の発言が続いています。

「チルドレンは使い捨て」と言っていた小泉元総理ですら、自分の息子に強力な地盤を継がせる始末で、「政治家の世襲はおかしい！」という国民感情は当然です。

私は2月、衆議院(1・2期)と参議院(1期)の若手に呼びかけ、「自民党を刷新する第三世代の会」(仮称)を結成し、主に世襲問題に取り組んできました。これまでに約40人の若手が参加しています。

【世襲の定義】一般的には「地盤(後援会組織)、看板(知名度)、カバン(集金力)の3バンを揃って親族から受け継ぐこと」を指します。そのため、自民党内でも「世襲は100メートル競走で、50メートルからスタートするようなもの」との批判が強まっています。

【世襲の弊害】弊害が顕著になってきたのは、平成8年の小選挙区制度の導入以降。

①同じ党から1人しか立候補できないため、新規参入が難しくなった、②当選回数重視される政界では世襲で若くして政治家にならないと要職が得にくい、③公募や予備選は、世襲の選挙区では機能しにくい、などの理由で日本の民主主義は危機的状況です。

【イギリスの下院】日本が小選挙区のモデルとしたイギリスではかつての政治腐敗に対する反省から、国会議員の子供が親と同じ選挙区で立候補することはまずありません。その結果、2、3世議員は646人中20人前後です。日本にできない理由はありません。



菅義偉・選対副委員長と意見交換。会の冒頭挨拶に立つ松浪ケンタ(4月21日、自民党本部)

「第三世代の会」の活動



▲公明党の榎屋敬悟衆議院議員を招いての勉強会。「世襲では(公明党の)支持者には説明ができない。是非実現を！」=4月14日



▲世襲問題に詳しいジャーナリストの上杉隆氏を講師に3月31日

4月22日付朝刊
読売新聞より ▶
▼日本経済新聞より

次期衆院選の自民党の政権公約に世襲制限を盛り込む是非を巡り、麻生内閣の閣僚は21日の閣議後の記者会見で不満を示した。森法相は「大正13年(1924年)からずっと私の一族で議席をいただいていた」と、納得できない様

世襲制限 自民に論争

子を隠さなかった。祖父は首相、父は外相で、自称「超世襲」の鳩山総務相は「私たちがまだいいが、後は駄目というのはいかん」と述べた。禁止するなら、麻生首相も含めた現職議員にも適用しないと筋が通らないとの考えだ。

一方、若手の「自民党を刷新する第三世代の会」では、「世襲議員は42・195歳を38歳から走らなければならない」と、制限を是認する声が出され、公約化を主導する菅義偉選対策副委員長は「党の体質が問われている」と訴えた。

世襲制限論に賛成相次ぐ 自民党の若手議員でつくる「自民党を刷新する第三世代の会」は二十一日、党本部で菅義偉選対策副委員長を招いて勉強会を開いた。菅氏が唱える世襲制限などをテーマに約三十人が参加し、出席者からは「制限することが開かれた党のメッセージになる」などの賛成意見が相次いだ。

「第三世代の会」結成
菅義偉選対策副委員長を招いての勉強会
2月19日付 毎日新聞